世界の人とふれあいタイム

「アゼルバイジャンの話」

実施日：平成 27 年2月1日(日)
場　所：学生交流室・国際交流室

今回のゲストスピーカーは２人のゲストの方をお招きしています。初めにスピーチされる方はバギロフ・フアドさんです。首都バクーの出身で 2013 年３月に来日しアゼルバイジャン大使館の三等書記官、領事として日本とアゼルバイジャンの政治、経済、文化などの仕事に従事しています。

２ 番目のスピーカーはカランタル・カリルさんで 1981 年に来日し光通信および光センサー開発や光学設計および液晶バックライトに関する仕事に従事し、出版物および特許多数の実績を持っていて、現在も液晶光工学分野において先端技術の研究を行っています。

バギロフ・フアドさん

アゼルバイジャンは４か国に隣接していて 1991 年 10 月 18 日に独立し国旗の青色はチュルク族(トルコ民族)の色、赤は自由、緑はムスリムの色を表しています。人口の 91%以上はムスリムです。石油と天然ガスが豊富でＧＤＰの成長率は５%を超えています。数年前から新たなカスピ海で天然ガスが採掘されています。カスピ海の石油は３つのパイプラインでヨーロッパに運んでいて、ヨーロッパに供給されています。アゼルバイジャンはヨーロッパにエネルギーを送る事で得た資金を基に、2013 年に人口衛星を持ち、新規 IT などに参入を行っています。

首都バクーは風の街という意味があり、政治・経済・文化活動の中心です。国は 41 の大小の州や地区で成り立って、独自な気候と多様な地域で４つの気候を持っています。また文化的遺産、歴史的な建造物、建築遺跡、考古学的史跡も数多く残っています。気候は独自な気候と多様な地形からなり山と温暖な海、薬効のある温泉、泥火山と天然ガスが噴出する地域であります。観光ではハイキングやトレッキング、登山、乗馬、マウンテンバイク、ハンティングがお勧めで、自然公園、エコツアー、バードウオッチィングも人気があるそうです。

大変素晴らしい日本語は、現地の大学で学んだそうです。

カランタル・カリルさん

来日 34 年目で光工学分野では世界的に大変有名な方です。アゼルバイジャンは、火の国＝火を拝む場所という意味があり、ゾロアスター教に地元です。ゾロアスター教は火を大切にする宗教であり、結婚式や祭りでよく使われるそうです。バイラム・イェニ・ギュン（春分の日）は３月 21 日、22 日で春のお祝いを表します。新年の前週の水曜日に人々たちは道や広場に焚き火を作りその炎を飛び越えます。伝統では火を飛び越える事で新年の幸福を招き入れ、過去の悪い年が遠くへ行ってしまうと言われています。

アルフレッド・ノーベルは、兄と 1878 年に『ノーベル兄弟石油会社（英語版）』を設立しアゼルバイジャンで油田開発、ナフサ精製、輸送などを受け持って巨万の富を築きました。なおノーベル(Nobel) アルフレッド・ノーベルはダイナマイトの発明で知られる実業家で、ノーベル賞は-アルフレッド・ノーベルの遺言によって作られた賞です。

またアゼルバイジャンの石油とノーベル賞は深いかかわりがあり、ノーベル賞の基本的な資金はアゼルバイジャンの石油から得たお金だそうです。ファジー理論（１か０かではない）の提言者のロトフィー・アスカー・サンデー氏、宇宙滞在最長記録を持つムサ・マナロフ氏、元チェスのチャンピオンのカスパロフ氏、記者で有名なリヒャルト・ゾルゲ氏等、全てアゼルバイジャンの出身者です。

参考までに首都のバクーは古い街で 1848 年に石油採掘が始まり 1941 年には海底油田開発も行っています。宗教には寛容で自由です。毛せんはとても有名との事でした。

終了後のアンケートは「大変良かった」と書かれたものが多く、大好評でした。

※次回は、**4月 26 日(日)「インドの話」**です。
お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

（世界の人とふれあいタイム委員長　生山 龍哉）